

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4月 1日

事業所名 放課後等デイサービス プレミアム荒江

1	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		クールダウンするため、また個別療育するための場所も別途用意している。	一人当たりのスペースと人数が適切であり基準を満たしている
	2 職員の配置数は適切である	○			児童指導員の人数を含め、基準以上の人員配置を行っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレなど段差がないようにしている。手すりも配置。	トイレ等、手すりをつけ、段差がないフロアになっている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日必ず反省、振り返り、実行できるような会議をおこなっている。	担当者会議に参加、関係者が集まり必要なサービスを提供している。また職員と共有し毎日個人の目標に対し振り返りをして改善している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表は職員で共有し保護者からのニーズ、改善策がわかるようにしている。	無記名、郵送にて返信、保護者が本心を伝えられるように工夫している。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年更新し、ホームページで公表している。	毎年3月31日にホームページで公開し誰でも閲覧できるようにしている。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		業務改善や意識向上のために第三者の評価を行っている。	第三者による評価を行っている。改善の必要がある場合は話し合いをし、改善策を講じて取り組んでいる。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		その都度課題を変え、研修を行っている。	毎月研修項目を定め職員で取り組んでいる。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		適した人材により定期的に行い、本人や保護者のニーズと課題を確認している。	アセスメントは必ず行い、保護者と利用者のニーズに合った計画書を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたアセスメントツールを使用している
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全員が参加し改善しながら立案している。	年間プログラム、日々の活動等チームで話し合い立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		凝り固まったプログラムにならないよう、年間を通して計画している。	固定化しないよう、複数名でチェック、改善しながら行っている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		時間に応じて個人スキルや野外活動などを取り入れている。	支援時間によって内容を変え支援している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動と個別活動を両方取入れ、バランスのよい計画になるよう努めている。	お手先トレーニングなどの個別活動に加え集団トレーニング(集団歩行)等取り入れている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員の役割や担当を決めることにより児童の個性に合わせて支援できるようにしている。	毎朝必ずミーティングを行い打ち合わせをしている
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援の振り返り、児童の振り返りを記載し、課題や改善の共有をしている	振り返りは必ず行っている。休みの際は翌日ミーティング用紙をみて確認している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		担当にも聞きながら記録をとり、改善があればおこなっている。	ミーティングの内容記載、各個人の振り返りを行い改善を話し合っている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者や職員と支援の課題や必要性を話し、計画している。	定期的にモニタリングを行っている。適切な者が計画の見直しの判断をしている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		ガイドラインに沿って支援内容を立てている。	自立支援、日常生活の充実、創作、余暇活動など組み合わせ支援を行っている。	

1	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		会議には児童発達支援管理責任者が出席するようにしている。	事業所に在住している児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	<input type="radio"/>		学校の先生やホームページからの情報によりトラブルのないよう努めている。	毎月のホームページの確認、送迎時の学校教員との情報共有等を行い、トラブルがないようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		担当主治医がいる場合、確認し、対応を共有している。	ケアが必要な子どもの場合は、かかりつけ医の連絡先や対処法を必ず確認している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	<input type="radio"/>		保護者様を通して基本的な支援内容や特性等提供している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	<input type="radio"/>		保護者様を通して基本的な支援内容や特性等提供している。	基本情報を共有している
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		場合により、ケース会議等を行い助言をうけている。	必要に応じて各機関の助言を仰いでいる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	<input type="radio"/>		感染症が落ち着いてきたため、機会や要望があれば行いたい。	機会があれば行っていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>		参加していきたい	参加できていない。コロナ感染症が5類に移行、今後は地域にかかわり参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		毎日の送迎等を利用し、自宅の様子や課題等聞き支援につなげている。	送迎時、またはメールや電話で日々の状況や課題、ニーズなどを話している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	<input type="radio"/>			相談があれば答えられる体制を作っている。送迎時等に成長に伴う変化、家庭での課題を聞くようにしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時、確認しながら説明を行っている。	契約時、時間を設け必ず説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		電話等で相談に応じ、助言や支援を行っている。	可能な限りアドバイスし、必要であれば専門機関を案内している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		コロナ感染症が5類に移行、保護者会も開催。その際にアンケートをお願いしたり、保護者様のご要望を聞く機会としている。	父母会は開催していないが保護者会を開催。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		対策委員会を設置し、迅速な対応ができるようにしている。	苦情対策委員会を設置し、苦情に対してすぐに対応できるようにしている。契約時にも説明し、保護者に伝えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		新聞を発行しているが、認知されていない事項等はある。	毎月新聞を発行、予定など発信している。
	35	個人情報に十分注意している	<input type="radio"/>		個人情報が目につかないよう、配慮している。	鍵付きのキャビネットで保管し十分注意して取り扱っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		カードやイラスト等利用し言葉で理解できない児童への配慮をしている。	電話、メール等24時間つながり、緊急時にも対応できるようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>			行っていない。今後検討し参加をしていく

1	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	<input type="radio"/>		職員で改定があった場合研修を行うなどして確認している。	ファイリングし、職員全員がすぐに見れるようにしているが、保護者への周知はできていない。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		外部からの研修も行き、非常時に備えている。	非常グッズを準備し、災害に備えている。また定期的に訓練もおこなっている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		委員会を設置し、虐待防止会議を定期的に行っている。	定期的に研修会を行い、虐待防止の意識を高めている。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<input type="radio"/>		様々な状況に応じて、やむを得ない場合を想定し話をしている。	保護者と、やむを得ず拘束を行う場合のことを想定して話し、職員間でも共有している。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		<input type="radio"/>	アレルギーの児童がいればしっかり対応していきたい。	アレルギー対応の児童がいないが、いる際は対応等聞いていきたい。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		事例検討会等行い全員で意識している。	必ず職員でミーティングして事故防止に努めている。